

■①被害児童の実態

昔に比べて子どもの犯罪は7割近く減っている一方、SNS に起因する被害は高い水準にあります。

なぜ SNS 起因での被害が増えているのか？

それは、子どもにとっては SNS (instagram の DM 等) でやりとりをした人=知り合い

という感覚となるから簡単に会おうとしてしまう。

ネットで知り合った相手とのやり取り

☆ネットで知り合った相手と1対1のやりとりを経験した者のうち、実際に会ったのは

小学生 約2割 中学生 3割弱 高校生(女子) 約4割

・児童・生徒にとって、ネットで知り合った相手とのやり取りすること、会うことが珍しいことではなくなってきている

資料：各年齢層に起因する少年の被害防止に関する調査報告書（科学捜査研究所）

ネットで知り合った相手とやりとりをして実際に会う割合が高いと思いませんか？

大人と子どもでは感覚が違うこと、それをまず認識しましょう。

その上で、親の管理・ルール決めをすること、これがとても大切です。

■②ネット・オンラインゲーム利用のリスク

- ・オンラインゲームを通して相手に性的な話をされることがあり、Instagram よりオンラインゲームの方が多い
- ・性的なコメントのある X に子どもたちが多くつながってしまっている
- ・ネット依存になってしまうと、簡単にはもどけません。
- ・課金
- ・言葉が悪くなる
- ・インターネットに一度掲載された画像は一生残る
- ・メッセージも残るリスクがある

大人は想像したら分かることかもしれませんが、これを子どもに伝えることが大切です。

画像・メッセージを送信、アップロードする前に立ち止まって考える癖をつけること。大人も意識しましょう。

■③親ができること

①②で現状を少し知ることが出来たと思います。では親ができることは何か、以下5点を実施していきましょう。

◆1:現状を知る

知らない子どもたちに教えられません。何が流行っていて、どんな問題が起きているかアンテナをはりましょう。

◆2:保護者が管理する

残念ながら、犯罪にあってしまった子どもたちは、親が管理されていないことが多いです。

子どもが不適切な使い方をした責任は、親の責任であるという心構えでルールづくりをしましょう。

(例)

- 接続する際やダウンロードするアプリを確認する（暗証番号は保護者が管理する）
- 個人を特定できる情報（名前、顔写真、学校名など）を書き込まない
- 人の顔を見て言えないことをネットで書き込まない（いじめに関わるようなことはしない）
- 知らない人と電話やメール、メッセージの交換をしない、フォローしない、フォローにしない
- 他人のID・パスワードを勝手に使わない
- 下着姿や裸の写真を撮らない、撮らせない、送らない、送らせない、持たない

(例)

- 課金するときは、事前に相談する
- ゲームをやるのは宿題終わった後で
- 歩きスマホ（ゲーム）をやらない
- スマホの利用状況を確認する（月に1回、週に1回、いつでも）
- 利用料金や利用時間を決める（午後10時以降は使わない、1日1時間以内、自分の部屋で使わない、リビングで使う、家族で出かける時はゲームを持って行かない、学校には持って行かない）
- 困ったことがあれば、必ず保護者にすぐ相談する
- ルールを守れなかった時のルールを決める（一時利用禁止、没収する）

ルールの押しつけはトラブルとなる可能性もあるため、必ず子どもと話し合っ決めていくことがポイントです。

また使い始めにルールを決めること。あとから戻すことは難しいです。

◆3:子どもの危機管理能力を育てる

ニュースなどをきっかけに、いろんな機会に繰り返し話をすることで養われます。

◆4:保護者自身もネット情報に頼りすぎないこと

子どもの見本は親です。

ネット情報では偏った知識になりがち。生の情報も取り入れましょう。

◆5:心を離さないようにしよう

子どもと会話するときは、携帯を見ずに顔を合わせて話を聞きましょう。

（参考・子育て四訓） 乳児はしっかり肌を離すな 幼児は肌を離せ、手を離すな
少年は手を離せ、目を離すな 青年は目を離せ、心を離すな